

日々の掃除を通じた育ちに期待

＜掃除をするわけは…＞

「なぜ、掃除をするのでしょうか」

こんな素朴な質問を、校長講話の時に子どもたちに投げかけてみました。様々な答えが返ってきました。

- 「ごみやほこりがおちているから」
- 「いろんな人が学校に来るからきれいにする」
- 「そうじをしながら心をみがく」
- 「自分だけじゃなくてみんなが使うところだから」
-

子どもたちにはそれぞれ視点があり、よく分かっているのだなと感じました。小学生から「心をみがく」という言葉が出てきたのは驚きました。立派な考えをもっているなあと感じます。子どもたちの意見をまとめると掃除の理由は以下ようになります。

- 健康：元気に過ごすため
目に見えない汚れ、よどんだ空気、ほこりをなくす。
心をみがいて成長する。心を健康にする。
- 快適：気持ちよく過ごすため
汚れを落とし、ごみを片付ける。きれいになって、整頓された所は気持ちがいい。
- 長持ち：ものを長く使うため
汚れを放っておくと早く傷むし、早く壊れてしまう。

そして、掃除をすることによって身についてくるものが3つあることを伝えました。

- ①協調性：みんなで力を合わせて、やり遂げようとする力
掃除だけでなく、行事やクラスのことなども力を合わせるようになる。
- ②段取り力：計画を立てて、先のことを考えながらうまく進めていく力
何を優先すればいいか、見通しをもって行動できるようになる。
- ③気づき力：大切なことに気がつく力
身の回りの良いこと、心配なことに気づくことができる。

これらを伝え、日々の掃除を大切にしながら頑張るよう話しました。無言での掃除については、更に考えてみましょう、としました。自分で考え、クラスで話題にして、それぞれの児童が目当てがもてたこととします。

9月の生活目標は「しゃべらずに、よごれに気づいておそうじをして、きれいな学校にしよう！」でした。この一カ月でどのように変わったかなと思い、掃除中に校内を歩いてみました。どの階もととても静かになりました。話し声がありません。子どもたちはそれぞれが意識をして取り組むようになりました。本当によく頑張ったと思います。



<音楽会に向けて>

今月末に行われる音楽会の準備が既に始っています。

<音楽会のねらい>

今まで学習してきたことを発表し合ったり鑑賞し合ったりすることによって、音楽の美しさを味わったり、表現活動を通して仲間と協力して音楽を創り上げる楽しさや成就感を味わったりすることができる。

本校では音楽会を、「保護者や地域の方々の方々の協力のもとに創り上げる、壮大な『授業』」と位置づけています。子どもたちも職員も一緒になって、追究し積み上げたもの、そこに「学び」が生まれます。単なる発表会ではなく、みんなで創り上げる「演奏会」にしたいと考えています。それについて、次の3点を大切にしていきたいと思います。

1 「練習」から「追究」へ

単調に繰り返すことに終始するのではなく、「どんなふう演奏したいか」「誰に聞いてほしいか」「どんなふうに表示するか」などみんなで考え合いながら追究していくことが「学び」につながり、授業となります。

2 「仕上げる」から「積み上げる」へ

先週より今週、一昨日より昨日、昨日より今日、今日より明日、というように、毎回学んだことを積み上げていきます。音楽会が最終ゴールではなく、音楽を学び追究する活動は今後も続いていきます。仕上げようという意識から、一つ一つ積み上げて今までで最高の演奏を、という意識で取り組みたいと思います。

3 「失敗を叱る」から「育ちを意味づける」へ

完璧に仕上げようとすると、どうしてもマイナス面に目がいきます。失敗が許されない雰囲気が漂います。間違えずに演奏することはもちろん大切ですが、音楽会が終わって「歌うことは楽しい」「演奏することは楽しい」「演奏を聞くことが楽しい」といった気持ちをもてるような音楽会でありたいと思います。

作曲家で指揮者の富澤 裕（とみざわ ゆか）先生は、「才能や上手・下手は関係ない。『やってみよう』と思ってくれさえすれば上達する。真剣でない人は絶対に許されない。今、自分にできることを最大限やろう」と言っています。子どもたちの精一杯のステージをお楽しみに。



<音楽会をみんなで創り上げる>

音楽会当日は、「子どもたちのステージでの演奏」「演奏後の心のこもった拍手」「会場のマナー」これらすべてがそろって「芸術」となっていくように思います。音楽を絵画に例えてみます。

ステージでの演奏	→	画用紙やキャンバスに描かれた絵（作品）
演奏後の心のこもった拍手	→	絵を飾る額
演奏前と後の移動中の静寂	→	額に入った絵を展示する会場（美術館、博物館）

演奏する者だけでなく、会場の私たちも一緒になって創り上げていきたいですね。美術館で大騒ぎする様子は見られません。静寂も芸術の一部を担っています。「演奏」「拍手」「静寂」、三拍子そろうことによって「さらにすばらしいステージ」となることでしょう。それが「演奏会」であり、「芸術」となるのだと思います。

当日は、子どもたちの精一杯の演奏（作品）を、温かい拍手（作品を飾る額）と静寂（会場の雰囲気づくり）をもって、みんなで創り上げられたら幸いです。